

DoKoネット

—同志社大学工学部同窓会報—
第3号(2001)



What's New!

2001年度第14回工学部同窓会リュニオン

2001年11月24日(土)

第1部 13:00~15:00 総会・懇親会 新島会館

(京都市上京区寺町丸太町上ル)

第2部 15:00~ 卒業年グループリュニオン

ー卒業年グループリュニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さいー

2001年度のリュニオン第2部は各卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年(S26, 31, 36, 41, 46, 51, 56, 61, H3, 8年卒業)の方々には特別に企画いただく予定となっております。詳細は下記ホームページでお知らせします。

ホームページを開設しています

<http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>

(URLのはじめはwww1ですのでご注意ください)

このページは工学部からのお知らせと共に工学部同窓会リュニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただきます。

本同窓会報”DoKoネット”第4号は2002年2月に発行いたします。

皆様の寄稿をお待ちいたしております。

21 世紀を迎えて

同志社大学工学部同窓会会長
坂口 一彦

20 世紀の初頭、某新聞に 100 年後を予想した記事が掲載されました。その中に 20 世紀の科学・技術の進歩を予想し、100 年後そのほとんどの予想は実現をみたとの記事がありました。20 世紀の科学・技術の進歩は衆知の通り目覚ましく、一方 20 世紀は戦争と環境破壊の世紀とも言われています。

科学・技術に係わっているわれわれは、21 世紀を迎えて過去を顧み、その反省の上に今世紀のわれわれの生き方、進むべき道について考えてみる必要があるのではないのでしょうか。前世紀の科学・技術の進歩により自動車、家電製品、パソコン、原子力の利用と日常生活の飛躍的な向上は過去に人類が経験しなかったような激震を与えたことは否定できません。またその科学・技術の進歩が戦争の様相をも一変してしまいました。先の戦争しかり、ベトナム戦争、湾岸戦争を思い出すとき、そこに科学・技術の進歩のバロメータと感じざるを得ません。これらの科学・技術のゆきつくところが、環境破壊への道をひたすら歩んだと言わざるをえません。しかし環境問題は科学・技術のみでは解決できるものではなく、そこに大きく立ちはだかっているのが政治と行政です。この政治、行政をも動かすことができるのはやはり科学・技術者の力ではないのでしょうか。

1 月 1 日の朝日新聞によると、これから 21 世紀は、20 世紀の科学・技術の負の遺産に対してわれわれ一人一人がどのように対処してゆくかを真剣に考えねばならない時に直面していると指摘しています。もう一刻の猶予すら許されない時が到来しています。これからの科学・技術の進歩、開発の上で一つのキーワードとして共生という言葉を忘れてはならないでしょう。ノーベル賞学者の福井謙一先生は、自然科学の将来の任務は自然を模倣するところから、自然にない知恵を得ること、自然にないものの再統合が必要であると指摘されました。再統合の際に自然に得られないもの、自然に合わないもの、自然に調和しないものに関して科学・技術者は十分に考慮することの重要性について述べられていました。

21 世紀では、環境破壊の元凶を摘みとるための技術の開発、また自然との共生を考えた科学・技術の進歩が望まれます。今問題となっている地球温暖化の問題にしても一朝一夕では解決しない問題です。人類が永い歳月をかけて構築した自然環境を、今われわれはどのように再構築するかが重要でしょう。これらの問題は宇宙規模、地球規模また身近な一人一人の日常生活の中にも多くの問題が内在しています。科学・技術者の進むべき道は、自らの周囲より再構築の道を考えねばなりません。正の遺産を引き継ぐための科学・技術に期待します。

工学部同窓会活動と第14回工学部同窓会リユニオンのご案内

同窓会幹事会

同志社大学工学部同窓会も早5年を経過いたしました。その間、卒業生の多くの方々からの問い合わせ、疑問などご指摘をいただいております。同窓会もまだまだ多くの問題点を内包しつつ今日を迎えている状況です。同窓会として、まず処理しなければならない問題は、工学会との関係であります。工学会の会則に卒業生の皆様を対象とした事業があり、工学会は卒業生の皆様から終身会費を徴収し、名簿などお送りし、また学内の情報などの提供をいたしており同窓会的機能をもっていました。しかし工学会は主として在学生の会費によって運営されていることから、分離いたしました。年会費をもとに同窓会は運営されています。この問題については過日の同窓会幹事会におきまして、学内の他学部同窓会で実施している入金徴収方法の検討を行いました。これは卒業予定者から同窓会入会金を徴収する方法です。すでに経済学部、商学部、法学部などの同窓会では実施しています。その実現にはいくつかのクリアしなければならない問題があります。同窓会の財政的基盤確立が急がれます。

卒業生の方々を大学を利用して頂き、卒業生として大学をサポートすることは大変重要ですが、当面の同窓会活動として、年に一度の同窓会報「DoKo ネット」の発行と、ホームページを充実、上記第14回リユニオンの開催を考えております。この活動を円滑に進めさせていただくために、年会費2,000円納入を卒業生の皆様にお願ひ致しております。昨年度の会費納入が予定より少なく本年も卒業生全員に「DoKo ネット」をお送りさせていただくことが出来ない状況で、同窓会立ち上げを援助いただくため年会費の納入をお願ひ申し上げます。現在の会計状態をご理解いただき、同窓会立ち上げにご賛同いただける場合には一口2,000円のご支援いただければ深甚に存じます。事務処理の効率化と経費節約を図るために、新しい年会費納入方式としてユーシーカード株式会社と契約いたしUC集金代行システムを利用し口座振替による年会費の引き落とし方式を導入いたしました。是非この方式により年会費をお納め下さるようお願いいたします。

第14回リユニオンは表紙裏にありますように2001年11月24日(土)開催予定でリユニオンを2つに分け第1部で総会開催と懇親会を行い、第2部で卒業年ごとのグループリユニオンを開催して、卒業後の節目になります5年ごとの学年の方々には特に5N周年特別記念同窓会として開催して頂きます。5N周年特別記念同窓会卒業年グループリユニオンは5周年が1996(H8)年、10周年が1991(H3)年、15周年が1986(S61)年・・・、50周年が1951(S26)年3月卒業の方々を対象となります。同窓会リユニオンの企画を頂くために各学科の卒業年ごとに世話役をお決めいただき、同窓会事務局へお知らせ頂ければ、最新の卒業年グループの名簿と宛名ラベルをお送りさせていただきます。

同窓会世話役を学外の卒業生の方々にお願ひし、工学部同窓会も全国各地に支部の設置をみ、卒業生の皆様と大学との太いパイプ役として機能する同窓会に発展することを願っています。

工学部同窓会年会費2,000円納入方法

1. UCカード集金代行 同封の預金口座振替依頼書に必用事項を記入し返送ください。
2. 郵便振替 00990-0-151193：同志社大学工学部同窓会
3. VISA, Master Card 同封のFax用紙にてお手続き下さい。
4. 銀行振込 南都銀行京田辺支店(店番740) 普通預金口座 218806
口座名 同志社大学工学部同窓会 代表者 坂口一彦

★従来の同志社工学会の年会費とは異なります。

知識工学科

2000年3月には88名が卒業し、4月には125名の新生を迎えました。また大学院博士課程(前期)知識工学専攻では34名に修士学位が授与され、37名が新たに入学しました。

2000年度の就職状況ですが、卒業生の皆様の活躍によりまして各会社から高い評価をいただき、全員が大学院あるいは就職と進路が決定しました。そして2001年度の就職委員は三森先生です。

2000年度には文部科学省の補助金を受け、「知能情報科学とその応用に関する研究」という名前の研究プロジェクトが知識工学科を中心として始まりました。この研究は、初年度15億円の事業規模で、知的エンジニアリングデザイン、知的情報処理およびメディア情報処理、知的化のための基礎理論などの研究を行います。研究拠点である「知能情報センター」は3階建て、4000平方メートルの面

積を持ち、超並列進化シミュレーター、磁気共鳴画像撮影装置、音響心理実験設備、知的判断／行動制御システムなどの最新設備が導入されます。ここでの研究は、一口で言えば、生物が進化の過程で生み出してきた遺伝子と脳の中に含まれる知的メカニズムを取り出し、それを新しい情報システムの設計と開発に利用しようとするものです。

現在の研究室およびその担当者は以下のとおりです。情報数理工学(渡辺陽一郎・原田 等)、知覚・認知機構(力丸 裕)、情報システム学(三森定道・芳賀博英)、知識情報処理(河岡 司・渡部広一)、知的機構(柳田益造・坂東敏博)、数理モデル(川崎廣吉・岡崎龍太郎)、知的システムデザイン(三木光範・廣安知之)

教務主任 三木光範

電気工学科・電子工学科

2000年3月には電気・電子両学科あわせて296名が卒業し、4月には306名の新生を迎えました。また大学院博士課程(前期)電気工学専攻では64名に修士学位が授与され、86名が新たに入学しました。2000年度の就職状況ですが、卒業生の皆様の活躍によりまして各会社から高い評価をいただき、ほぼ全員が大学院あるいは就職と進路が決定しました。そして2001年度の就職委員は辻先生の予定です。

2000年4月に笹岡先生をお迎えて通信工学研究室が立ち上がり、さらに超高周波研究室に出口先生をお迎えました。現在の研究室およびその担当者は以下のよう

です。
超音波エレクトロニクス・応用計測(大谷隆彦教授・渡辺好章

教授・松川真美助教授)、電気回路(加藤利次教授)、電気機器(戸高敏之教授・石原好之教授・原田和郎助教授)、電力系統解析(雨谷昭弘教授・長岡直人教授・馬場吉弘助手)、プラズマ応用1(行村建教授)、プラズマ応用2(藤田一郎助教授)、光・電子回路システム1(大田建久教授)、光・電子回路システム2(佐々木和可緒講師)、電気電子材料1(大鉢忠教授)、電気電子材料2(吉門進三教授)、超高周波工学(繁沢宏教授・辻幹男教授・出口博之講師)、通信方式(笹岡秀一教授)、応用物理(和田元教授・粕谷俊郎助教授)、応用数学(大宮眞弓教授・渡邊芳英教授・梶原健司助教授)

教務主任 加藤利次

学科紹介

機械システム工学科・エネルギー機械工学科

機械系学科では、現在、学生在籍者総数は 1365 名、その内訳は、機械システム工学科、1年生 170 名、2年生 157 名、3年生 178 名、4年生 238 名、総数 743 名であり、エネルギー機械工学科は1年生 165 名、2年生 126 名、3年生 148 名、4年生 183 名総数 622 名です。一方大学院(工学研究科機械工学専攻博士課程)は総数 203 名で、そのうち前期課程(修士)は1年生 101 名、2年生 92 名、計 193 名であり、後期課程(博士)は 10 名が在籍しています。また、2000 年度より新カリキュラム、新研究室体制が発足し、より効果的で質の高い教育・研究への取り組みが開始されました。

現在、学生たちは次の研究室にて活発な研究を行っています。機械要素・トライボロジー研究室(坂ロー彦教授・小林眞造教授・松岡敬教授)、構造工学研究室(藤井透教授・大窪和也専任講師)、金属材料科学研究室(御牧

拓郎教授・宮本博之専任講師)、応用材料工学研究室(今井田豊教授・長谷部忠司助教授)、成形加工研究室(片山博生教授・青山栄一教授)、伝熱工学研究室(千田衛教授・稲岡恭二助教授)、噴霧・燃焼工学研究室(藤本元教授・千田二郎教授)、流体力学研究室(平田勝哉助教授・舟木治郎助教授)、流体力学研究室(水島二郎教授・山口博司教授)、制御工学研究室(原敬教授・横川隆一助教授)、機械力学研究室(小泉孝之教授・辻内伸好助教授)、物理学研究室(小堀至教授)、数理工学研究室(浦部治一郎教授・押目頼昌教授)の 13 研究室です。なお、2001 年 3 月末を持ちまして小堀至教授が停年退職され、2001 年 4 月より新たに高岡正憲先生が着任されることになりました。

教務主任 山口博司

数理環境科学専攻

本専攻は工学研究科修士課程の独立専攻(学部学科を基礎としない専攻)として 1998 年度に発足しました。学部で習得した工学の諸知識の上に、環境問題に取り組むために必要な数理科学や地球科学・生命科学・健康科学の知識を習得し、環境問題に対応できる高度な技術者や研究者の要請を目指しています。

1 学年の定員は 20 名ですが、98 年度生は 29 名、99 年度生は 31 名が在籍しています。9 名の専任教員が専攻の教育研究を担当し、修士論文の研究を指導しています。新しい専攻であり、これまで学生指導の経験のない教員もいますので、工学研究科他専攻の協力を得て、これらの学生の約半数は他専攻の先生方の指導のもとに、環境関連テーマで修士論文の研究に取り組んでいます。また、環境問題は人文・社会科学とも深く関連していますので、文科系学部の卒業生も 98 年度生に 1 名、99 年度

生に 2 名を受け入れております。社会人も 99 年度生に 2 名います。このように本専攻はきわめてユニークな専攻であります。

2000 年 3 月に最初の卒業生を送り出します。ユニークな専攻ではありますが、まだ発足したばかりの新しい専攻であり、知名度も低いので、就職活動には一定の困難性がありましたが、他専攻の就職委員の協力に助けられて、ほぼ 100%の就職率を達成できました。専攻のユニークさを反映して、一流の大企業から新生のベンチャー企業まで、情報・電気・機械・薬品・食品関係から天然ガス開発・技術者派遣業・SE まで、きわめて多彩な企業への就職が内定している状況です。

専攻主任 西邨 顕達

機能分子工学科・物質化学工学科

昨年は、白川英樹博士のノーベル化学賞の受賞によって、「化学」のおもしろさと重要性が再認識された年かと思えます。これを機会にますます若い人たちが「化学」に興味をもつようになっていただければと思います。

今回は、化学系が取り組んでいます高校生を対象にした大学一日体験入学「夢化学・21」について簡単にお話しさせていただきます。毎年、7月の下旬に開催しており、今年で7回目になります。京都府、大阪府、奈良県、滋賀県の130校余りの高等学校に案内を差し上げています。昨年も化学系教員 24 名、学部生・院生 33 名の協力のものと、7月20日(木)に実施しました。高校生が参加しやすく、また大学の紹介もかねる意味で、同志社大学オープンキャンパスの開催日に日程をあわせています。100名の定員に対して200名近い応募があり、大盛況でした。はじめに講義を行なったあと、参加者の布望によってグループに別れ、機能分子工学および物質化学工学の実験のテーマに取り組んでもらいました。

ご参考までに昨年の実験テーマから、いくつかを紹介します。「いったりきたりする反応(振動する化学反応を調べてみよう)」「熱を感じる巨大分子を作ってみよう(特殊な機能のある高分子を作ろう)」「染め物、染料(有機物で布に

絵を描いて化学反応で色を付けよう)」「化学反応で生まれる光の世界(光の出る化学反応を調べてみよう)」「生鮮食品の真空凍結乾燥(食べ物の味を損なわない乾燥を試してみよう)」「コンピュータで探る粒子の集まりとその不思議(粒子集合体の動きを解き明かそう)」などなどです。

また、高校生からは、「大学生、大学院生といろいろな話ができて面白かった」「大学のキャンパス、実験室、教室が見れて良かった」「来年もぜひ参加したい」などの意見がありました。

今年も7月20日(金)にオープンキャンパスとあわせて開催の予定です。お問い合わせは、物質化学工学科の白川善幸講師(電話0774-65-6596)までお願いします。白川講師、曰く、「私、白川英樹博士とは縁もゆかりもございません」。

最後に、2000年度の化学系の在籍者数をご紹介します。機能分子工学科635名(卒論生128名)、物質化学工学科575名(卒論生117名)です。また、約30%が大学院に進学します。工学研究科・工業化学専攻には、博士前期課程137名、博士後期課程12名が在籍して研究に励んでいます。

教務主任 田坂明政

2001年度工学部就職委員

	担当者	就職委員室	連絡先
知識工学科	三森 定道	有徳館東館 YM-223	Tel:0774-65-6249, Fax:0774-65-6809 Email:js-kou1@mail.doshisha.ac.jp
電気系学科	辻 幹男	有徳館西館 YE-513	Tel:0774-65-6246, Fax:0774-65-6806 Email:js-kou2@mail.doshisha.ac.jp
機械系学科	松岡 敬	有徳館東館 YM-103	Tel:0774-65-6247, Fax:0774-65-6807 Email:js-kou3@mail.doshisha.ac.jp
化学系学科	廣田 健	至心館 SC-207	Tel:0774-65-6248, Fax:0774-65-6808 Email:js-kou4@mail.doshisha.ac.jp
数理環境科学	押目 頼昌	報辰館 HS-209	Tel:0774-65-6250, Fax:0774-65-6250 Email:js-kou5@mail.doshisha.ac.jp

就職関連資料室: Tel:0774-65-6240, Fax:0774-65-6805

ひとことエッセー

人生に退職はない

1968年電気工学科卒 橋詰 源治

1月28日、早朝に大鉢先生より原稿の依頼を受けました。よろしく願い申し上げます。さて1964年度生も入学以来38回目の春を迎え、就職当時の停年55才に全員なりました。終戦の1945年に生を受け、東京オリンピックの年に大学入学、1968年卒業し、大阪万国博前で経済は高度成長の真っ只中であり、後を顧みる間もない忙しさが続いていました。私は1971年8月父の死去により25才でしたが社長となり今日に至っております。家業は電気工事、モーター修理、販売を行っておりましたので、子供の時からモーターの分解やコイル巻替えなどを見て育ちました。近所の友達(同大、機械卒)も遊びに来ては狭い工場の中で手伝ってくれました。職人さんがモーターのスイッチを入れるとゆっくり回転し、少しすると心地よい音がして、いきおいよく回転しました。これがY-△起動運転と解ったのは大学の講義によるものです。私は子供が小学校へ入学した時から、PTA行事と大きく係わる様になり平成6年3月、全国より120名の中学生を引率し、北京師範大学附属中学を訪問した時、校長より、知育、徳育、体育、美育、

勤労と、5つの教育方針を伺いました。校庭にはその看板が大きく建てられていました。そして勤労という言葉は、バブル景気で浮かれていた私に一番印象深く残りました。また理科教育に力を入れており、教材や実験施設はすばらしいものでした。ところが今、日本では若者の理科教育離れが大きく報道されています。

電気製品はハイテク、デジタルへと高級な物となりました。故障しても分解修理するよりも新製品に取り替えた方が安く、便利な時代となりました。しかし今の子供には修理され、再び映ったテレビなどの感動に会う事は少なくなりました。学生時代、講義の中で、先生にアメリカへ払う特許料が大変な金額なので、技術立国が将来の日本に大切な事だと教えられた事が今思い出され、一番気になる事になってきました。

近所の子供の一人でも工学関係へ進む様に地域で指導するのがこれからの仕事と感じます。人生これからもう一仕事頑張りましょう。

株式会社橋詰電気工業所 代表取締役

第13回工学部同窓会リユニオン報告

新島会館において2000年11月11日(土)午後1時から、約50名の参加を得て開催、第1部の坂口一彦会長の議長による総会では、昨年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画等の議事が承認された。引き続き、軽食とビール、ワイン、ウイスキー、ブランデー・・・の懇親会でご退職の先生方と現役の教職員のかたがたを交え参加者の懇談が続きました。生協の同志社グッズ販売店も会場に開設され、同志社煎餅なるものも登場し好評で、3時に閉会。出席頂いたご退職の(電気系)ト部泰正、津田博(機械系)網島貞男(化学系)橋本静信、清水澄、北部安満先生方と現教員19名が参加いたしました。

第2部の学年同窓会開催は、今年は同志社創立125周年のリユニオンが先だって11月3日に記念卒業式と同時に開催され、学年により既に分離開催していただいた所もあった。(詳細はホームページHPに掲載しております)
電気系：○35周年(昭和40年)○30周年(昭和45年)記念卒業式○28周年(昭和47年)記念卒業式○25周年(昭和50年)11月3日16:00~19:00「京都タワーホテル」○20周年(昭和55年)○10周年(平成2年)125周年リユニオン時：弘風館 参加20名、化学系：○4周年(平成7年)

ひとことエッセー

博遠館の思い出

1988年機械工学専攻修了 青木 剛

歴史ある理工学館のすぐ横の同志社中学校の技術家庭科教室をくぐり抜けると、右手に機械系学科の2階建ての建物、左手に同中の校庭がある。その間の小路の奥に博遠館であった。6年間の学生生活の大半を過ごした網島・藤井研の学生・院生部屋は、2階の烏丸通り側の2部屋であり、その並びには網島研、平井・片山研、廊下を挟んだ向かい側が千田研や検図室、コピー室であったように記憶している。

網島・藤井研学生部屋は15畳くらいの広さだが、ワークステーションやPC、ソファ、大机、いすが所狭しと置いてあった。夜は、帰りそびれたゼミ生の宿に早変わりした。自宅のある豊中からは1時間半の電車通学だったが、研究が忙しくなると帰るのが面倒になり、研究室での寝泊まりが増えた。寝場所はM2生から決めていき、当然ソファが真っ先になくなり、我々学部生は机の下や床の上にマットレスを敷き、毛布をひっかぶって寝るしかなかった。掃除の行き届かぬ部屋はあちこちが埃だらけで、また、伝統の毛布だけあって不潔この上なかったが、一日の研究生活を終了し心地よい充実感と共に毛布にくるまる時が一番好きだった。しかし、さすがに汚さが気になり、大学院進学と同時に平井研の原田君と新町に月6千円づつ出し合って6畳一間の部屋を借り清潔な寝床を確保した。とはいえ雨が降ったり底冷えしたり明け方まで研究室に居たときなどは、やはり研究室の床に世話になった。

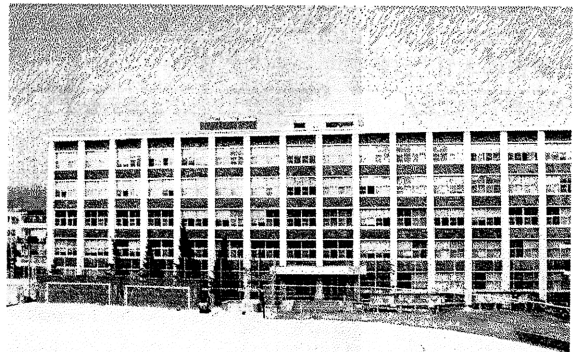
博遠館での生活は今でもよく覚えている。先生方が帰られた後は我々院生の天下であった。もう時効だから白状するが、地下実験室でのビデオ鑑賞会、院生部屋での酒盛り、前後不覚の〇〇お漏らし事件、他の研究室の勉強妨害、夏は屋上で大文字焼きを酔っぱらいながら送り、冬は鍋焼きうどんパーティーetc... M2の大晦日も博遠館で過ごし、院生仲間と相国寺で除夜の鐘を突いた。願いはもちろん各々の修士論文をとにかく完成させ、必

ずみんな一緒に卒業しよう(俺を残して卒業するなよ)であった。質は別として自由で自主的で個性的であることにこだわり、地道に、ひたむきに、がむしゃらに研究や勉強に没頭し、そして、かけがえのない人生の友を得た時代であった。博遠館は小さな建物だが大きな宝を与えてくれた学舎であった。

卒業して13年目を迎えようとしているが、その間に工学部は広大な田辺キャンパスへ移転してしまった。一度だけ訪れたことのある田辺は今出川の何倍も大きく、それぞれの研究室や設備もきれいで最新の研究活動を行うにはもってこいの場所であろう。現役同大生がどのような学生生活を送っているのかは想像もつかないが、田辺のスケールの大きさを内包した、自由でひたむきな個性を身につけて社会に飛び出してもらいたいと心から願っています。

最後になりましたが、文才のない自分にこのような機会を与えて下さった藤井先生、どうもありがとうございました。

(株)本田技術研究所栃木研究所



なつかしの博遠館

ひとことエッセー

重政先輩のご逝去を悼む

化学系関東地区OB会代表幹事

1961年工業化学科卒 鈴木淳平

同志社化学系OB会にとって、ミスター同志社であり、牽引車でもありました重政さんが急逝されました。一昨年7月15日の夕方のごことでした。急性心不全でした。亡くなられる2日前に、私ども化学系関東地区OB会の幹事会に「出席します」とのFAXを戴いていた直後の突然の訃報でした。67才です。残念でなりません。先生方からも「本当に、惜しい人をなくしましたね…」としみじみとお悔やみを頂きました。

重政さんとOB会との関わりについては、工学部OB会を始め、化学系関東地区OB会、五四工会、翠晨会等々多くのOB会の礎を築かれました。特に、後輩達との人間関係の形成、悩み事への相談にも、常に自然体として語り掛けて頂きました。化学系関東地区OB会でも、後輩の方々が、重政さんに電話をすると「おー、電話しようと思っていたんや」で始まり、「久しぶりにゆっくりめしでも食おうや」となり、そのコミュニケーションを通じて、自然に学ぶことが実に多かったと言っています。

写真は、一昨年11月に上羽先生が勲三等旭日中綬章を受勲された日に、東京で、先生と重政さん(右)です。重政さんのおられた上羽研の方々は、学生時代から、上羽先生を中心に、自然にカルチャーが醸成され、現役からOBに至るまで縦の繋がりがごく自然に親しげに繋がっています。これが、いわゆる College Culture となつて、自然体で受け継がれています。

三洋化成工業を定年退職後は、技術士(化学)、技術士(情報工学)、中小企業診断士、社会保険労務士を始め気象予報士等の多くの資格に挑戦、いずれも取得され、各地に招かれての講演活動に、後輩の成長を楽しみにした生活を送っておられました。残念でなりません。最後に、重政先輩が好んで歌われた「揚げば尊し」を思い浮かべながら、重政さんのご厚情に感謝するとともに、ご冥福をお祈りしたいと存じます。



ひとことエッセー

産学（産学官）交流を思う

1969年工業化学専攻修了 浅井 利彦

1969年に大学院を修了後、京都府の試験研究機関（京都府中小企業総合センター）で仕事をする事になり、一昨年現在の職場に異動するまで、微力ながら京都府の産業技術活性化に役立てればと研究や試験以外に、産学（産学官）交流にも取り組んできました。その間、感じたことを少し述べさせていただきます。

京都は、日本一の伝統産業の町でありながら、一方では、世界の最先端に行く京セラ、オムロン、ローム、村田製作所などベンチャー企業を多く排出しています。このベンチャー企業誕生の要因は、京都では、「ものづくり」の土壌が十分に耕されていたことに加えてもう一つ重要なポイントとして、早くから取り組まれていた産学（産学官）交流や共同研究にあると言っても過言ではないと思います。

私が就職したのは、昭和40年代でしたが、その当時或いはそれ以前、毎日のように京セラ、ロームなどが私どもの施設や設備を利用し、その中でも京セラの稲盛さんの夜討ち朝駆けの利用はすごかったと先輩から聞かされました。もう一つ驚いたことがありました。京都大学や同志社大学等の著名な先生方に、ちっぽけな京都府の試験研究機関に協力をいただき、また中小企業の現場にも足を運んでいただいているという現実でした。このように京都府では昭和30年代から産学（産学官）交流の先駆者的な役割をつとめており、そのような環境の中で、ベンチャー企業は、大学との交流、官（公設試験研究機関）の利用により、創業から中小企業を経て大企業に成長していったのです。

一方、今日において、日本の産業はコスト競争、発展途上国の追い上げ等の中、欧米技術のキャッチアップによる発展は終焉を迎えています。また、貿易摩擦の最大の要因は、輸出製品の数量の問題より日本のオリジナルの少なさにあるとの説もあります。自動車に見られるように

自国で開発した技術や製品が、他国の日本のそれにとって代わられることへの心情的反発が大きな要因のようです。この状況下で、日本企業は、キャッチアップ型から脱却しオリジナル技術の開発、製品化を進めなければ、発展と生き残りが望めなくなりました。これに対応するために、京都のベンチャー企業発展に欠かせなかった産学（産学官）交流が、最近システム化され、基盤技術の研究とその応用開発が急速に進みつつあります。

そこで、産学交流をさらに進めるために、学のシーズ・産のニーズと定款的にのみとらえるのではなく、これを裏返しに考え、学は人類の豊かな生活、自然との共生、長寿社会などに利用される技術の開発を産との共同で行うことをニーズと位置づけ、産が委託したい基盤技術開発の研究テーマをシーズとした出会いの機会を多く持つことはいかがでしょうか。大学からはお叱りを受けるかもしれませんが、工学部の研究は社会に役立つことが大切と私は思っております。

また、京都の各工学系大学にも、産学共同研究を促進するための交流センターが設置され、積極的に取り組まれています。我が同志社にもおいてもRCASTが設置され、産学（産学官）交流が着実に進められています。システムや取り組みが他の大学と比べてもう一つ活発でないように感じます。産学（産学官）交流は、日本の産業にとって不可欠となっていますので、RCASTの今後の発展と活動を期待してやみません。

最後に、冗長な文になり皆様にお詫びいたしますとともに、21世紀の日本の技術開発への同志社大学の産学（産学官）交流の大いなる寄与と工学部の益々の発展をお祈りしたいと思います。

京都府計量検定所 所長

施設案内

同窓生・ご家族の皆様にご利用いただける施設をご案内致します。OB・OG会に家族旅行にご利用下さい。

1. 同志社びわこリトリートセンター

これまで学生のクラブ・サークル・ゼミ合宿などの施設として長年親しまれてきました小松学舎が、同志社創立125周年記念事業の一環として全面的に新築され、「キリスト教主義教育・国際交流」のための施設、「同志社びわこリトリートセンター」として2000年11月1日に生まれ変わりました。「リトリート」とは、聖会または修養会として自然の中に退き、聖書を学び、かつ祈り、神との交わりを持つことを意味しています。新施設には、礼拝堂、宿泊棟(和室・洋室等)、セミナー室の他、キャンプエリア、テニスコート、グラウンドなどがあります。施設の前方には琵琶湖国定公園を、後方に比良連峰を仰ぐ風光明媚な湖北の地にあります。同窓生の皆様にも各種施設がご利用いただけます。

■ 所在地:滋賀県滋賀郡志賀町大字北小松 179

JR 湖西線「北小松」下車、徒歩20分

■ 申込先

使用日の6か月前の月初め(1日)から1週間前までにお申し込み下さい。

同志社大学施設部管財課 TEL:075-251-3165

■ 同窓並びにその家宿泊族施設使用料 (1人1泊)

和室・キャビン:¥4,500, テントサイト:¥1,500

洋室:¥5,000(2名1室), ¥6,500(1名1室)

■ セミナー室・礼拝堂使用料(1室あたり)

室区分	9時 ～12時	13時 ～17時	17時 ～21時	終日
セミナー室	¥2,000 ～4,000	¥3,000 ～5,000	¥3,000 ～5,000	¥7,000 ～13,000
礼拝堂	¥8,000	¥10,000	¥10,000	¥26,000

■ テニスコート使用料 (1面)

9-13時:¥4,000, 13-17時:¥4,000, 9時-17時:¥7,000

■ 食事メニュー

朝食:¥500, 昼食: ¥300～¥700 チェックイン時に予約

夕食:¥1,300 ～

申し込み時に予約

2. 晩晴草堂

富士五湖の一つ、山中湖畔に晩晴草堂があります。徳富蘇峰先生ゆかりの建物を同志社が寄贈を受け、学生・教職員などの厚生施設として利用しているものです。晩晴草堂は熱海市伊豆山において蘇峰先生が晩年を過ごされた遺邸として、とても由緒ある建物です。

■ 所在地:山梨県南都留郡山中湖村旭日丘

TEL:(0555)62-0336・0086

JR 新幹線「三島」または「熱海」下車もしくはJR 御殿場線で「御殿場」下車、富士急バスで「御殿場」経由「旭日丘」下車。晩晴草堂まで徒歩5分。

■ 申込先 6ヵ月～1週間前

同志社大学施設部管財課 TEL:075-251-3165

3. 同志社チャペル

重要文化財のチャペルで結婚式ができます。挙式者のどちらかが同志社大学の卒業生で、使用の意義を理解してもらえる牧師に司式の依頼が必要です。使用料は10万円。6か月前から予約を受付けています。

■ 申込先

同志社校友会 TEL:075-251-4393

4. 今出川キャンパス ハリス理化学館の施設

今出川キャンパス・ハリス理化学館1階に卒業生のためのラウンジがあります。母校へお立ち寄りのときにはご休息に、お待ち合わせなどにお気軽にご利用いただけます。ラウンジではビデオ「新島襄の生涯」(15分)、卒業アルバムなどを用意しています。また、Neeshima Room では同志社設立の経緯をご覧いただけます。

・卒業生ラウンジ ハリス理化学館 1F

(平日・日曜日) 9:30～17:00, (土曜)9:30～12:00

ただし、祝日は休館

・Neeshima Room 「ハリス理化学校記念室」

新島先生ゆかりの資料による企画展を開催しています。

ハリス理化学館 2F 10:00～17:00

連絡先:同志社大学企画部企画室校友課

TEL:075-251-3009, FAX:075-251-3097

E-mail:ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

同志社大学工学部同窓会会則

総則

第1条 本会は同志社大学工学部同窓会(以下同窓会と略す)と称する。

第2条 本会は会員相互の親睦を厚くし、同窓生と同志社大学工学部の双方の発展に貢献することを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。

1. 研究会、講演会
2. 同窓会報および名簿の発行
3. 同窓生懇親会(リユニオン等)の開催
4. その他必要と認められる事項

第4条 本会事務局の設置場所は、同窓会幹事会において決める。

会員

第5条 本会の会員は、同志社大学工学部(大学院および旧工業専門学校を含む)卒業生、学生として在籍した者、工学部の現教職員、および元教職員とする。正会員の年会費は2千円とする。

役員と幹事会

第6条 本会に会長1名を置く。会長は総会において選出する。また本会に幹事長を置く。幹事長は幹事会において選任する。

第7条 本会には、各学科において互選された各学科数名の学内幹事および数名の学外幹事、会計監査を行う監事2名を置く。

第8条 会長、幹事、監事の任期は、原則として2年とし、再任を妨げない。幹事は、自己の都合により幹事を辞任する場合、幹事会に後任者を推薦できるものとする。

第9条 幹事会は、会長1名と幹事より構成し、幹事長もしくは会長が、幹事会を召集する。

第10条 幹事会は毎年度の事業計画書・事業報告書(予算、決算報告を含む)を作成し、事業を行う。

第11条 幹事会議事録、事業計画書、事業報告書は本会事務局に保管する。

総会

第12条 本会は原則として年1回総会を開催する。

第13条 総会は会長がこれを召集し、議長を務める。

第14条 次の事項は総会に報告する。

1. 前年度決算・事業報告
2. 当該年度の予算・事業計画
3. その他幹事会で必要と認めた事項

第15条 総会の議事録は本会事務局に保管する。

付則

1. 本会の会則の変更は幹事会で起案し、総会で承認を得て、工学会へ報告する。

1999年11月27日改正

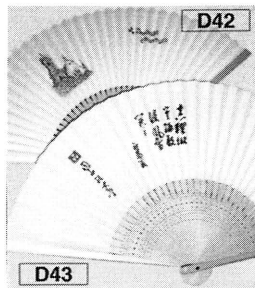
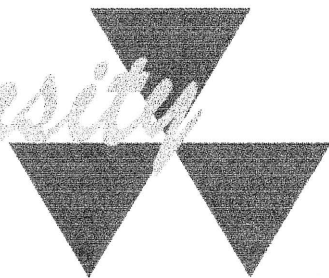
幹事会

工学部同窓会幹事

	氏名	卒業年	所属
会長	坂口 一彦		同志社大学工学部
学外幹事	電気系	上西 勝也 S37 電気	園田計器工業(株)
		藤原 義博 S39 電気	松下電器産業(株)
		橋詰 源治 S43 電気	(株)橋詰気工業所
	機械系	小林 正義 S45 機械, S47 修機械	(株)堀場製作所
		大久保 稔 S56 機械, S58 修機械	ヤンマーディーゼル(株)
		福永 浩 S59 機械, S61 修機械	MMC コベルコツール(株)
		瀧 高弘 S62 機械	三菱自動車工業(株)
		篠木 俊雄 S61 機械 II, S63 修機械	三菱電機(株)
		深見 洋司 H1 機械 II, H3 修機械	川崎重工業(株)
	化学系	中山 仁郎 S39 工化, S41 修工化	日本ニューマチック工業(株)
		近持 隆 S41 工化	パクセルインターナショナル(株)
		堀内 健一 S49 工化	ニッタ(株)
		湯浅 智 S53 工化, S55 修工化	日新電機(株)
		中村 清己 S55 化工, S58 修工化	宝塚市立安倉中学校
学内幹事 (幹事長)	知 織	芳賀 博英	hhaga@mail.doshisha.ac.jp
		電気系 大鉢 忠	tohachi@mail.doshisha.ac.jp
	機械系	長岡 直人	nnagaoka@mail.doshisha.ac.jp
		藤井 透	tfujii@mail.doshisha.ac.jp
	化学系	青山 栄一	eaoyama@mail.doshisha.ac.jp
		塚越 一彦	ktsukago@mail.doshisha.ac.jp
監事	(前会長)	田中 義文	yotanaka@mail.doshisha.ac.jp
	(前幹事)	加納 航治	同志社大学工学部
前幹事	電気系	米澤 徹 S40 機械, 博士	ヤンマーディーゼル(株)
		中野 恵二 S55 電子	富士通テン(株)
		大田 建久	同志社大学工学部
	機械系	戸高 敏之	同志社大学工学部
		汐見 知行 S45 機械 II	三菱自動車工業(株)
		辻 克巳 S45 機械 II	住友電気工業(株)
		中村 成男 S42 機械	(株)堀場製作所
		田中 達也 S58 機械 II, S60 修機械	(株)神戸製鋼所
		千田 二郎	同志社大学工学部
	化学系	平田 勝哉	同志社大学工学部
		東城 哲朗 S51 工化, S53 修工化, 博士	東洋炭素(株)
		山口 修	同志社大学工学部

Doshisha University

いつまでもカタチに残る 同志社オリジナルグッズ



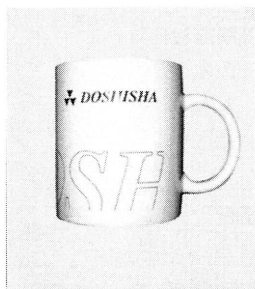
D42 クラーク館 ¥1,200
D43 寒梅の詩 ¥1,500



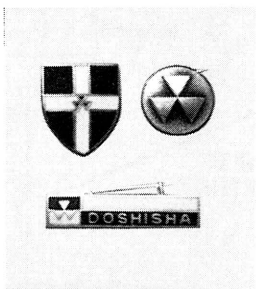
D44 うちわ ¥120



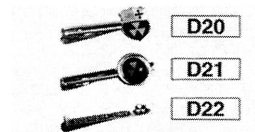
D18 せんべい ¥572



D17 マグカップ ¥700



D60 パッチ(3個) ¥500



D20
D21
D22



D19 牛革ベルト 組価2500円

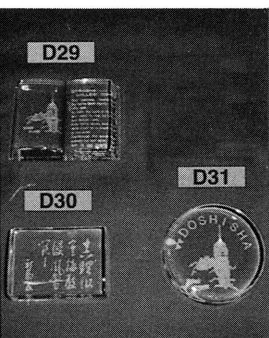


ネクタイ各種
D23 D24 D25 D26

D20 タイピンゴールド ¥2,500
D21 タイピン七宝 ¥1,000
D22 タイピンUniv. ¥500
D23 ネクタイ シルバー ¥3,800
D24 ネクタイ クレスト ¥3,800
D25 ネクタイ エンジ ¥3,800
D26 ネクタイ グリーン ¥3,800



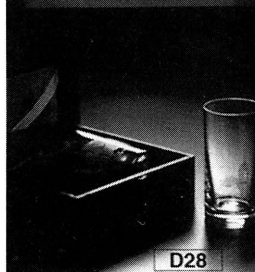
D27



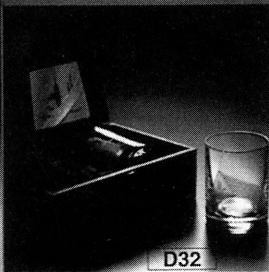
D29

D30

D31



D28



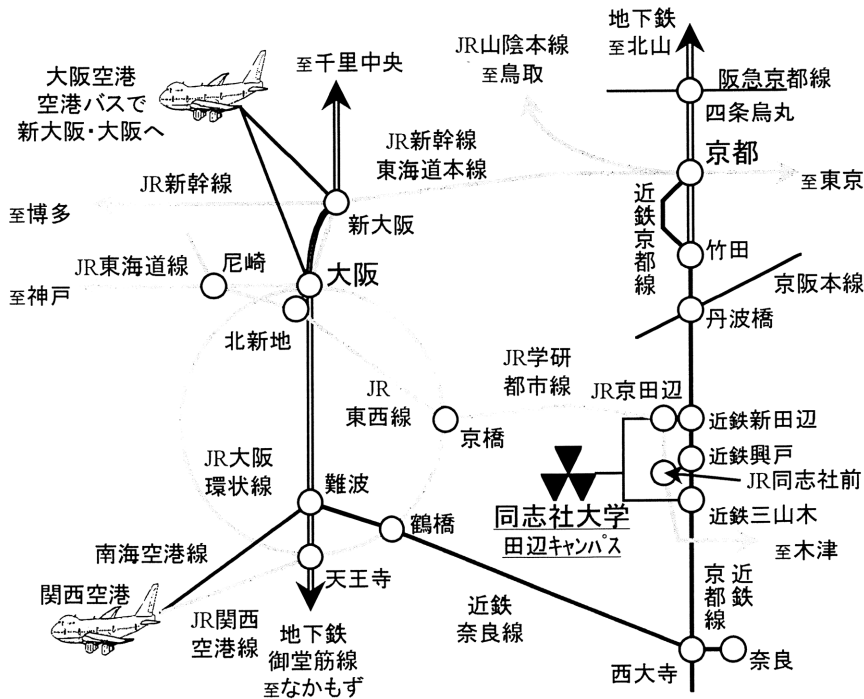
D32

このほかにも商品がございます。
詳しいお問い合わせ、商品のお申込は
下記までお願いいたします。
同志社生活協同組合 京田辺購買部
〒610-0321
京田辺市多々羅都谷1-3
tel0774-65-8375

D27 ワイングラスセット ¥3,800
D28 タンブラーグラスセット ¥4,500
D29 ペーパーウェイト 本型クラーク ¥3,500
D30 ペーパーウェイト 角型寒梅の詩 ¥2,300
D31 ペーパーウェイト 丸型クラーク ¥2,300
D32 ロックグラスセット ¥4,500

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>

工学部同窓会ホームページアドレス <http://www1.doshisha.ac.jp/~kogakubu/dosokai/>



同志社大学 田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3

工学部・工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0774-65-6804

同志社大学工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。
同窓会事務局(大角)あてご自由に連絡、投稿下さい。

2001年3月15日発行

同志社大学工学部同窓会

発行者:坂口 一彦

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学工学会内

工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷:(有)木村桂文社 Tel:075-381-9784 Fax:075-381-1510